2022 年 7 月 5 日 SSR(高 2)授業 『地域・都市の社会学』章ごとのプレゼンテーション 3

資料：生徒発表資料/ディスカッショントピックプリント

『地域・都市の社会学』を読み、グループごとに各章を担当してまとめたものについて、引き続き生徒たちがプレゼンテーションを行い、ディスカッショントピックについて話し合います。今日の 4 章のグループ発表で章ごとのプレゼンテーションは最後です。

●第 4 章　グローバル化とどのように向き合うのか―再生産領域への労働移動から考える

グローバル化のなかの世界都市、そもそもグローバル化とは？社会生活のモバイル化、情報テクノロジーの進歩により世界規模の社会関係が強まる。グローバル化によって生じた様々な格差、問題を検証する。日本の再生産領域で働く移民の例として、フィリピンからの移民を取り上げ現状を知る。移民から選ばれる日本になるためには。

グローバル化に伴う議論はどのようなものがあるか
ジョン・アーリの 5 つの領域「戦略・イメージ・イデオロギー・スケイプ・フロー」
ジェンダー差別の定着、地域によって女性内でも格差
労働不足の日本と受け入れられた移民の現状（現場）についてもっと知るべき

【全体のプレゼンテーションを終えて】

（良かった点）・各自が分担した役割をきちんと果たしていた。

・提出の期日もきちんと守られていた。

・パワーポイントを使うグループがほとんどで、視覚にも訴えるという意味でとてもよかった

・これからまちづくりをさらに深く学ぶ上で、「社会学」の知識を身に付けたことは、新しい気付きや興味のあるテーマを見つけるうえでも有意義であった。今後のリサーチにおいてもよりよい分析ができると思う。

（改善点）　・内容の違いもあるが、プレゼンターによってわかりやすい、わかりにくい点があったと思うので、今後に活かして欲しい。

・グループワークで役割分担は必要だが、同じ本、同じチャプターをまとめる場合に、せめてグループでは発表のスタイルや資料の規格は統一したほうがいい。

・それぞれの箇所のプレゼンテーションのあとには、その章全体の総括やまとめがあったほうがよい。

【課題】

引き続き、教員が Google Classroom に挙げたディスカッショントピックについて、しっかりと本、プレゼンテーションを振り返ってまとめてください。

まちづくりに関する課題図書から（もしくは自分で本を探す場合は相談）１冊を選び、精読、内容の要約と、自分の考察をまとめてみましょう。

【課題図書】

	タイトル	著者	出版社
1	デンマークのスマートシティ	中島 健祐	学芸出版社
2	フライブルクのまちづくりーソーシャル・エコロジー住宅地ヴォーバン	村上 敦	学芸出版社
3	イタリアのテリトーリオ戦略	木村 純子	学芸出版社
4	余韻都市　- ニューローカルと公共交通	中村 文彦	鹿島出版会
5	スローシティー世界の均質化と闘うイタリアの小さな町	島村 菜津	光文社新書
6	地域✕クリエイティブ✕仕事	服部 滋樹他	学芸出版社
7	ポートランド 世界で１番住みたい街を作る	山崎 満広	学芸出版社
8	フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか	ヴァンソン藤井由実	学芸出版社

楽しく有意義な夏休みを過ごしてください！

2022 年 9 月 6 日 SSR(高 2)授業「まちづくりに関する専門的な本をもとに、考えを深め、提言を行う」

資料：ワークシート 2-1-1

夏休みが明けて初めてのＳＳＲ講座です。夏休みの間に、それぞれが親元で、また地元で、訪れた街で、この講座でのまちづくりで学んでいることをリンクさせて感じたり考えたりすることがあったようです。夏休みの課題にあった課題図書について、それぞれがまとめた要約や考察を読み合って、本の情報を共有します。「２学期も頑張っていきましょう！」

今日は、２つのレポートをまとめるにあたり、レクチャーを受けました。また、帖佐教諭がフィールドワークの候補地として視察し、担当者の方たちにもインタビューをしてきた富山市について、まちづくりの取り組みを報告します。

●夏休みに読んだ課題図書の共有

生徒たちは、それぞれが読んだ夏の課題図書について、お互いがまとめた要約や考察を読み合い、本の情報を共有しました。また感じたことや質問を話し合っていました。

●２つのレポート

①文献報告（９月提出）

次の４つの内容を意識し、夏休みに読んだ課題図書についての説明を洗練させます。

・主題　どのような問題意識から書かれたか

・方法　その主題に応えるためにどのようなアプローチをしているか

・意義/効果　この文献で生産された知識は社会にどのように影響し得るか

・限界　扱った主題に対して、この文献でカバーできていない範囲や、論理的弱点はあるか

②まちづくりに関する考察（10 月提出）

１学期に輪読をした『地域・都市の社会学』について、自分の心をつかんだ論点に関係した問いを立てて（主題)、論理的に考察を展開してください。その考察には、夏休みの課題図書で学んだことを含めること。

●富山市について帖佐教諭より

観光名所の金沢や白馬と隣接しながらも富山市はなかなか人びとが足を運ばないイメージ、人口減少、まちの規模も小さく衰退していることが課題です。ところが、前市長が打ち出した「AMAZING TOYAMA」キャンペーンでのシビックプライドの向上を目的とした取り組み、コンパクトシティを目指したトラムの活用の充実、地域の中心部や沿線にまちの機能や住宅を集める政策を積極的に実践し、課題解決に成功しています。住民が意思決定にどう関わったのかも興味深いところです。また行ってみたいと思うまちでした。

2022年9月13日SSR(高2)授業「まちづくりに関する専門的な本をもとに、考えを深め、提言を行う(レポートの作成にあたって)」

資料：ワークシート 2-1-2

先週、取り組み始めた2つのレポート作成にあたり、その作業に取り掛かります。その前に改めてレポートの書き方のレクチャーを受けました。基本的な点について確認をしました。今後は、読んだ書籍や提出したレポートをもとにグループ分けを行い、グループで書籍から学んだことを基本とした提言をまとめ、プレゼンテーションを行う予定です。

●レポートの書き方

① タイトル　主題や問いを明確なものに
例えば「SSRレポート」や「～を読んで」といった大雑把なタイトルではなく、何に興味があり、適切な問いとしてわかるものにすること。

② 体裁　正しい段落の付け方や好ましいフォント
行間を広くし過ぎる、段落ごとに毎回行を空けるということはせず、レポートに適した体裁を整えること。フォントは明朝体、文末はである調で書く。

③ 引用/引用注　読んだ本の文章から必ず複数個所を引用
自分の主張の裏付けや説得力を持たせるために有効であるため、引用は重要。引用は必ずそのまま借用すること。その際に引用注は形式に注意し、統一感を持たせる。

●プレゼンテーションに向けて

11月に実施する予定です。全員が読んできた本の内容に必ず触れてください。一冊の本だけでは見えてこなかったことが明らかになり、複数冊を参照することで得られる気付きや考察をプレゼンテーションに込めることが重要なポイントです。一学期の反省として、分業化しすぎて一貫性を損なう発表やレジュメになったこと、「ことば」をかみ砕き要点の伝わる的確な表現を時間をかけて練ることが必要だということも話し合われました。

●リサーチブック作成の取り組みに向けて

こういった2学期の作業、発表といった取り組みは、3学期に作成に取り掛かるリサーチブックのテーマ決めにもつながっていきます。自分たちの興味がどこにあるのかを常に意識して取り組みましょう。

2022年9月27日SSR(高2)授業 「『最新版 論文の教室』よりレポートを見直してみる」

資料：ワークシート2-3

生徒たちはレポート作成に取り組んでいます。進捗はどうでしょうか。参考にと、今日の講座の前半の時間を使い、大学、大学院時代と多くの論文を書きあげてきた城村教諭からお話を聞きました。論文の作成時に参考になる書籍の紹介や、その内容に沿って具体的に役立つアドバイスを受け、このレジュメは今後も役立つ保存版となりそうです。

●レポートの書き方

紹介したい書籍は、『最新版 論文の教室　レポートから卒論まで』です。
論文の書き方の解説本は他にもありますが、この本には主人公がいて、作文のヘタな大学新入生という設定です。その主人公が自分のダメな論文を「Aプラス論文」へ改善するまでのプロセスを追いながら、論文の基本からアウトラインの作り方、草稿のまとめ方、仕上げ方までを伝授しているところに、わかりやすさと同時にとても共感でき、自分もやってみようという気持ちで読み進めることができます。

【「問い」をひねり出す】
①読んだ本からネタ探し。引っかかるところや気になるところは、自分で膨らませやすいところ。
②ネタにさまざまな問いをぶつけてみる。「本当に？」「どういう意味？」「どんな？」「いかにして？」「すべてそうなのか？」等
③ネタを問いとしてダウンサイジングする。漠然とした問いではなく、小さな問いはどんどん深め、広げられる。

避けたほうがよい問い
大きすぎる/調べる手段がない/答えが流動的/答えがない

ネタを探すという視点で本を再読して、目からうろこ、激しく同意、納得いかない、はっきりと反発を覚える、などそれぞれの箇所を見つけ、こういったネタに問いをぶつけてみることができます。その問いのダウンサイジングが肝要で、具体的な小さな問いをどんどん深め、広げることでレポートのかなりの部分が決まってくるということでした。
何について書きたいのか、ポイントを押さえて論理性があるか、もう一度今日のレジュメと自分のレポートを照らし合わせてみてください。

2022年10月4，11日SSR(高2)授業 「レポートの仕上げとプレゼンテーションに向けて」
資料：ワークシート 2-4-1

生徒たちは２つのレポートの課題を完成させ、グループに分かれて書籍からの学びをもとにまちづくりについての提案をプレゼンテーションします。レポート作成の過程では、教員からレポートの書き方についてのレクチャーや、提出したものに対してコメントを受け取り、ブラッシュアップしたものが完成しつつあります。

●プレゼンテーションの準備

グループでの話し合いはとても活発に行われていました。プレゼンテーションの準備の作業も順調です。関心のあることはさまざまなようで、まちと宗教の関りや選挙の投票率など、何をテーマに置いて提言をするか意見が交わされていました。プレゼンテーションのパワーポイントや原稿は、グーグルクラスルームでシェアし、改めて教員のアドバイスを受けます。

●特別講演のお知らせと準備

生徒たちの先輩で、現在ドイツケルンのルートヴィヒ美術館の元美術館研究員をされていた田附那菜さんに「公立美術館とまちづくり」について講演していただくことになりました。田附さんは、現在京都で開催されている「ルートヴィヒ美術館展」で来日されているところ、貴重なお時間をいただくことになりました。アートとまち、また公共施設という観点から、まちづくりの多くのヒントとなるお話を伺えることは大変楽しみなことです。生徒たちは、その講演に向けても、事前に学び、聞いてみたいことをまとめます。

ケルン市が運営するルートヴィヒ美術館のコレクションは、市民のコレクターたちによる寄贈を軸に形成されてきました。ルートヴィヒ美術館展の公式ウェブサイトには、展覧会の出品作品について、「美術館と市民との生きた交流の証」と記されています。ピカソの数多くの収集でもとても有名でこちらのポスターにもなっている創設者のルートヴィヒ氏の自画像もピカソによるものです。ぜひ美術館展にも訪れてみたいです。

2022年10月25日SSR(高2)講演 「公共美術館とまちづくり　田附那菜先生」

資料：ワークシート 2-5-1

京都での展覧会「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡」が開催されるにあたり、元研究員で、同志社国際の卒業生でもある田附先生より講演とセッションをしていただく機会をもちました。田附先生、貴重なお時間をいただき本当にありがとうございました。

●田附那菜先生について

1992年京都市出身。同志社国際高等学校卒業、同志社大学文学部美学芸術学科卒業、独ケルン大学大学院修士課程美術史研究科修了。ルートヴィヒ美術館研究員(2020年7月-2022年6月)を経て、ミュンスター大学大学院博士課程に在籍しながら、様々な展覧会図録の寄稿文執筆、展覧会やアートプロジェクトの企画・運営に携わる。

高校時代は、漠然と将来のことに悩む中、先生のアドバイスで学部を決めたそうです。高校3年生で3.11が発生、環境問題に先駆けて取り組んだドイツに興味をもったこと、ドイツに幼少期に滞在した経験が、ドイツへとつながったきっかけだったかもしれないと話してくださいました。また、やりたいことを職業にするドイツの知り合いとの再会があり、一転奮起、大学ではドイツ語も一から、学業にもとても熱心に興味をもって取り組んだそうです。自分がどんな人間なのか、何に興味があるのか、考えてみることが大事だったと高校時代を振り返られていました。

●公共美術館とまちづくり

講演は、限られた時間のなかで、生徒たちがリクエストした多くの質問を中心にお話をしてくださいました。今回の展覧会と特徴としては、名品展ではなく、あくまで作品は市民からの寄贈や寄付で成り立っていること、美術館のコレクション史やそれぞれの作品の歴史に注目してくださいとのことでした。美術館の名前にもなっているルートヴィヒ氏をはじめとしてどのような市民によって支えられてきたのか、そしてケルン市が運営する公共美術館の成り立ちや管理、そして社会的にはどのような役割を果たしているのか、とても興味深いお話でした。無料開放の日、music nightなどお酒を飲んだり踊ったりといった交流イベント、さまざまな分野とのコラボ企画、教育プログラムなど、美術館は年齢を問わず、ハンディキャップの有無を問わず、全ての立場の市民の日常生活の一部だとおっしゃっていたことがとても印象深かったです。日本と比べて市民との距離の近さを感じました。

2022年11月1日SSR(高2)授業 「まちづくりプレゼンテーション①」

資料：プレゼンテーションレジュメ、評価シート

まちづくりに関する書籍を読み、レポートを書き、グループに分かれてからは意見を交換しながらまちづくりについての提案をまとめ、そしてプレゼンテーションの準備をしてきました。今日から３回の講座に渡り、各グループのプレゼンテーションの発表、発表を聞き、質疑応答、そしてシートに記入します。

●グループ７「まちに愛着と誇りをもてるまちづくりを実現するには」

（読んだ本）西村佳哲、青木将幸、堀田裕介、中脇健児、鬼本英太郎、藤澤晶子 他著「地域×クリエイティブ×仕事」（学芸出版社）

島村菜津著「スローシティ～世界の均質化と闘うイタリアの小さな町」（光文社）

ジグムント・バウマン著「コミュニティ 安全と自由の戦場」（筑摩書房）

（内容）社会の課題：社会の個人化とまちの均質化

２つのまちづくりの事例：イタリアと淡路島

２つの共通点

参考にした書籍の共通点と相違点

（提案） まちづくりにおいても多様性と個性を重要視すべき

まちに対して愛着や誇りは自分たちで自分たちのまちを考えることのできるコミュニティを創造し、地域と関わっていくことで自然と育つ

●グループ１「『誇りの空洞化』は貧しさの原因なのか」

（読んだ本）平井太郎、松尾浩一郎、山口恵子著「地域・都市の社会学:実感から問いを深める理論と方法 」（有斐閣）

山崎満広著「ポートランド -世界で一番住みたい街をつくる」（学芸出版社）

島村菜津著「スローシティ～世界の均質化と闘うイタリアの小さな町」（光文社）

（内容） 誇りの空洞化とは

貧しいとは

参考にした書籍の相似点

誇りの空洞化が及ぼす社会への影響

（提案）今後の日本（過疎地域と都会のどちらも）は誇りを取り戻すことで改善･更新を図るべき

●グループ５「街づくり、何が大切か　a proposal」

（読んだ本）武田 尚子、文 貞實著「温泉リゾート・スタディーズ」（青弓社）
山崎満広著「ポートランド -世界で一番住みたい街をつくる」（学芸出版社）
ヴァンソン藤井由実、宇都宮浄人著「フランスの地方都市にはなぜシャッター通りが少ないのか」（学芸出版社）

（内容）街づくりに何が大切か
各書籍の内容と３つの共通するポイント
（市民を大切に・情報の見える化/自然と景観/政策）

（提案）市民を大切に行政の情報の見える化図る
自然を取り入れて災害に強い、環境問題に配慮した街に
政策で公共交通機関の充実や雇用形態などの見直し

●グループ４「歩いて暮らせるまちづくり」

（読んだ本）ヴァンソン藤井由実、宇都宮浄人著「フランスの地方都市にはなぜシャッター通りが少ないのか」（学芸出版社）
島村菜津著「スローシティ～世界の均質化と闘うイタリアの小さな町」（光文社）
村上敦著「フライブルクのまちづくり」(学芸出版社)
（内容）地方都市の問題点
なぜ「歩いて暮らせる街」がいいのか
解決策（中小規模企業の活性化/交通政策）

（提案）モータリゼーション普及前の「道」は一番身近な交流の場所であった
街の仕組みをつくるのは行政の役割だが、市民１人１人が街や移動のあり方を考え行動してはじめて実現可能

●質疑応答から

・市民の意識が変わることがよいまちづくりへの大きな後押しに。その方法は？？
・女性がいきいきと働く地域では、経済困窮や少子化といった問題解決につながっている。
・ヨーロッパやポートランドにみられるモータリゼーションは、歩いて楽しいという文化が薄い日本では根付くか？
・歩く楽しみという一方で、環境問題や、高齢化が見過ごせない社会状況では車中心の社会を見直す必要性に迫られている。
・差し迫った問題と、まちの課題を整理し、地域に合った個性ある解決策を考える必要性がると気付く。

2022年11月15日SSR(高2)授業 「まちづくりプレゼンテーション②」

資料：プレゼンテーションレジュメ、評価シート

まちづくりに関する書籍を読み、レポートを書き、グループに分かれてからは意見を交換しながらまちづくりについての提案をまとめ、そしてプレゼンテーションの準備をしてきました。今日は各グループのプレゼンテーションの続き、２日目です。

●グループ９「市民と行政の協力したまち作り『てとてとプロジェクト』」

（読んだ本）ヴァンソン藤井由実、宇都宮浄人著「フランスの地方都市にはなぜシャッター通りが少ないのか」（学芸出版社）

西村佳哲、青木将幸、堀田裕介、中脇健児、鬼本英太郎、藤澤晶子 他著「地域×クリエイティブ×仕事」（学芸出版社）

山崎満広著「ポートランド -世界で一番住みたい街をつくる」（学芸出版社）

（内容）行政主体の例　フランス

住民主体の例　日本 淡路島

行政と住民が協力した例　ポートランド

日本の現状

（提案）「てとてと商店街プロジェクト」

店を出したいという気持ちがあればチャレンジできる環境、支援制度をつくり、荒れた商店街の再開発を行う

住民と行政が手を取り合って街づくりを行なうことが最も大切

●グループ８「日本の公共交通機関の在り方～コミュニケーションが積極的に取れる社会」

（読んだ本）西村佳哲、青木将幸、堀田裕介、中脇健児、鬼本英太郎、藤澤晶子 他著「地域×クリエイティブ×仕事」（学芸出版社）

中村文彦著「余韻都市　ニューローカルと公共交通」（鹿島出版会 ）

中島健祐著「デンマークのスマートシティ」（学芸出版社）

（内容）公共交通機関の普及による問題点として

・市民の幸福、都市の格差問題

・エネルギー、社会問題

・人びとの交流の薄れ

（提案）よりよい街にするためすべての交通機関を電気化し、規模縮小する

●グループ２「市民ファーストのまちづくり」

（読んだ本）中島健祐著「デンマークのスマートシティ」（学芸出版社）
山崎満広著「ポートランド -世界で一番住みたい街をつくる」（学芸出版社）
ヴァンソン藤井由実、宇都宮浄人著「フランスの地方都市にはなぜシャッター通りが少ないのか」（学芸出版社）

（内容）本から３つの地域のまちづくり比較
共通：市民参加型、公共交通政策の優先
相違：デジタル面から市民の幸福をつくる
文化的な面から市民の幸福をつくる

（提案）行政側は市民のことを考えてまちづくりを（市民が話し合える場作り）
まちづくりで大切なことは地域の人の幸福を一番に考えること

●グループ６「国民性がまちづくりにどのような影響を与えるのか」

（読んだ本）山崎満広著「ポートランド -世界で一番住みたい街をつくる」（学芸出版社）
小川さやか「その日暮らしの人類学：もう一つの資本主義経済」（光文社新書）
木村純子、陣内秀信著「イタリアのテリトーリオ戦略：甦る都市と農村の交流」（白桃書房）

（内容）それぞれの国民性とまちづくり
文化/地域の繋がり/まちのあり方

（提案）まちに住んで住民の意識が変わる⇔住んでいる人々がまちに影響を与える
まちを発展させていくには、そのまちに住む人々の特性を理解することが大切

●質疑応答から

・よいまちや政策は、住民が主体、住民の意見を取り入れる市民参画型であることが大事。
・大きいまちを作ること=正解ではない！
・騒音問題や環境負荷を減らすために全ての交通機関を電気にした場合、電力ダウンしたときの対策はあるのか？
・「てとてと商店街プロジェクト」というネーミングも併せて提案したグループは、プレゼンの過程においても行政が主体の例、住民が主体の例、行政と住民が協力した例と、理路整然と解説し、最後の提案も説得力を感じた。
・まちづくりは、そのまちの歴史や背景など現在に至るまでの経緯を知ることも必要。

2022年11月22日SSR(高2)授業 「まちづくりプレゼンテーション③/リサーチブック」
資料：プレゼンテーションレジュメ、評価シート

まちづくりに関する書籍を読み、レポートを書き、グループに分かれてからは意見を交換しながらまちづくりについての提案をまとめ、そしてプレゼンテーションの準備をしてきました。今日は各グループのプレゼンテーションの続き、3日目。そして後半はリサーチブックの主たるテーマ、タイトルを話し合いました。

●グループ3「よりよいまちづくりのために」
（読んだ本）中島健祐著「デンマークのスマートシティ」（学芸出版社）
村上敦著「フライブルクのまちづくり」（学芸出版社）
島村菜津著「スローシティ　世界の均質化と闘うイタリアの小さな町 」（光文社新書）

(内容)京田辺市の特徴
活気あるまちづくり
車のないまちづくり
京田辺市で採用できるか

（提案）アルベルゴディフーゾ/カーポート住宅で活気あるまちづくりへの貢献ができる。
それぞれが住むまちが抱えている問題を自覚してよりよいまちづくりを行うために行動する必要がある。

●グループ１０「市民中心のより活発な問題解決を行うには？」
（読んだ本）西村佳哲、青木将幸、堀田裕介、中脇健児、鬼本英太郎、藤澤晶子 他著「地域×クリエイティブ×仕事」（学芸出版社）
木村純子、陣内秀信著「イタリアのテリトーリオ戦略：甦る都市と農村の交流」（白桃書房）
山崎満広著「ポートランド -世界で一番住みたい街をつくる」（学芸出版社）

（内容）それぞれに読んだ本の参考になる政策紹介

（提案）地域の特色を活かしたまちづくりを
豊かな日本の食文化を守る
農村地と都市の交流で農村を守る
住民と行政が対等に意見を交換する
住民に多くの権限を、そのためのワークショップによるトレーニングを

●質疑応答から

・車社会、特に京田辺のようなまちの範囲が広い地域では、車の移動が大前提であるところを、どうやって歩いて快適なまちにするのか。危機感を持つ、意識を変える、行政の公共交通の整備が課題。

●リサーチブックについてのアイディアを共有しテーマ/タイトルの案を出す

　これまでの、課題図書、田附先生のお話、まちづくりのプレゼンテーション、グループでの話し合いなど、全ての講座での取り組みを振り返り、さらに発展させた話し合いをしましょう。いよいよ３学期はリサーチブックの作成に取り掛かります。その大切な、主たるテーマ、そしてリサーチブックのタイトルの候補を各グループ３つ挙げてください。興味深かったこと、ぜひもっと調べてみたいこと、それぞれの意見を聞いてまとめましょう。

（途中経過）

Research Book Themes

	1		2	3
G1	海外のまちづくりの政策を京都で実施する	各地域の外観設計について	まちづくりのコンセプト	
G2	イギリスのまちづくりをどのように京都で実	バルセロナに学ぶ市民参加型のまちづくり	マドリードから学ぶ地下化とそれに伴う都市空間	
G3	市民参加型のまちづくり	それぞれが目指すべき理想のまちづくり像		
G4	市民の意識とまちづくり	日本でコンパクトシティを実現するためには	誰もが暮らしやすい街づくり	
G5	伝統を残した街づくり		シビックプライドが持てる街づくり	
G6	イギリスのまちづくりを京都で実践することは可能か			
G7	国民性に合ったまちづくり	市民参加によって作り上げる理想のまち	誰もが満足できるまちづくり	
G8	欧州をはじめとする海外のまちづくりの政策	グローバル化されたまちを作るには差別をなくし平和平	文化や伝統をどのようにして正しく受け継ぎまちを作るか	
G9	公共施設とまちづくりの関係性	住民参加型のまちづくり	景観を重視しつつ暮らしやすいまちづくりとは	
G10	ヨーロッパの観光業はアジアでは可能か	ヨーロッパの公共交通機関について	ヨーロッパから学ぶまちづくり	

　生徒たちはグループでの意見交換をとても活発に行っていました。

今日で２学期の講座が終わりますが、話し合った内容をまとめて、Google Classroom に提出します。これから本格的に取り組むリサーチブックの作成に向けて、適当に考えるのではなく、興味を持てること、ワクワクすることをしっかり整理し、また抽象的になりすぎず具体性を持たせることに注意してください。３学期の取り組みを楽しみにしています！

2023年1月10日SSR(高2)授業 「渋谷区の取り組み/リサーチブックのテーマ」

資料：ワークシート3-1

これまでにまちづくりの先進事例をいくつかリサーチしましたが、本日の３学期 1 回目の講座では、渋谷について坂下教諭をお招きしてお話を伺う機会を持ちました。タイムリーなことに、年明け早々にニュースで渋谷駅改良工事に伴う山手線終日運休が報道されていました。坂下教諭のご友人でオリンピックの有明体操競技場など数々の建築を手掛けられている高橋秀通氏に、まさにこの渋谷再開発に携わる企業のご担当者を紹介いただき、貴重なお話を伺うことができたのでシェアしていただきます。

●渋谷の課題

関東大震災後、街の発展とともに各鉄道事業者が路線を増やし駅舎を継ぎ足し続けた結果、線路やホームが複雑に入り組み動線の混乱した状態に。建物も５０年以上経て、その老朽化に加え、谷である土地の特徴から水没などの弊害、地震や災害時の備えの脆弱さも問題になっていました。

●日建設計が課題に対して行った取り組み

渋谷駅は、現在こういった問題を改善するのに大改修が行われています。渋谷駅の特徴として利用する人の目的が多様であることから、属性による誘導ではなく、誰もが行きたいところにストレスなく移動する手段として、「アーバンコア」による上下移動の動線を採用しました。また周辺では宮下公園の整備も行っています。公共と民間双方の経営能力および技術的能力を活用して行う手法を取り入れました。協力してやっていかない限り開発は不可能と考えました。また渋谷未来デザインや渋谷駅中心地区デザイン会議など、学識委員、地元代表委員、行政委員が参加する委員会により、様々な立場の人が集まて意見やアイディアを出し合い方向性を決めていきます。

●HIGH LINEとは？宮下公園の特徴

HIGH LINEとは、ニューヨークでかつて物流に使われ廃線になっていた2.3キロに及ぶ高架の線路を、取り壊すことなく歩く公園として生まれ変わらせたもので、街のオアシスとなっています。造園デザイナーなど民間の人たちも多く関わってデザインされました。それにより、寂れていた周辺地域の治安も回復し人の往来が活発になりました。

一方高架ではありませんが宮下公園は昭和中頃から２階建ての立体公園でした。その後平成になってから、大手スポーツメーカーの買収により一時は「ナイキパーク」としてスポーツ公園に変更されました。そういった歴史を経て今回の整備では、４階建て、下層にショッピングモールと併設した多機能な公共空間へと生まれ変わりました。最上階の公園は渋

谷カルチャーの象徴であるスケートボードの広場、他にボルダリングウォール、多目的運動施設、そして自由にくつろげる約 1,000m²の開放的な芝生広場にかかる緑のアーチがシンボルです。

●お話を聞いて

奈良の猿沢の池や宇治の平等院のスターバックス、観光名所や公園に突然できるおしゃれな外資系チェーン店が増えています。集客を目的とした安易なアイディアのようにも感じますが、今日お話にあった渋谷大改修でも取り入れられた PFI（Private Finance Initiative）という手法は広く一般的になってきました。民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用した公共事業の手法ですが、あくまで地方公共団体が発注者となり、公共事業として行うものです。まちづくりにおいても、まだまだ課題が多くあります。皆さんが社会人となり民間企業に入ってもこういった事業と関わる可能性が大いにあると思います。どのように生きていこうか、今から多くの事例に触れ、考え学ぶことは大変有意義だと感じています。

●リサーチブックのテーマ

２時間目は、２学期の続きとしてリサーチブックのテーマについて議論してきた内容を、新たに冬休みに調べたことを交えて各グループで話し合いました。それぞれ熱心に意見交換をしていました。最後には、まとめた結果としてどのようなことをテーマとしたいかを発表し、全体で共有しました。

～テーマの例～

海外の政策は日本のまちづくりに適応するか
まちづくりのコンセプトを多方面からみる
ヨーロッパの街並みと京都の比較
バルセロナの市民参加型、市民中心のまちづくり
海外と日本の地方でのまちづくりの違い
学生の参加できるまちづくり
市民の意識とまちづくり
SNS の意見を取り入れやすいまちづくり
誰もが暮らしやすいまちづくり
伝統を残したまちづくり（伊根町の例）
シビックプライド
公共施設とまちづくり

2023 年 1 月 24 日 SSR(高 2)授業 「リサーチブック作成 1」

前回までの講座でリサーチブックのテーマをまとめ、取り上げたいトピックについても意見を出し合いました。次はいよいよ具体的にリサーチブック作成に取り組んでいきます。

●リサーチブック作成の前に（帖佐教諭より）

コミュニケーションセンターの担当もしていますが、CC の役割として、もちろん第一は図書館やコンピューター利用のできる空間として、そしてそれに加えて新しい取り組みとして人の集まる場所にもしたいと新しい企画を立てて実施してきたので紹介したいと思います。

【CC で新たな試みとして行ったイベント】
「MBA についての説明会」
「国立民族学博物館の『みんパック』ワークショップ」

学びの大きな 1 つの要素として人との関りがあり、人と関わることで、また知ったことをきっかけとして、コミュニケーションが増えるということもあります。こうした想いから CC の幅広いさまざまな活用を検討中です。皆さんのリクエストやアイディアもお待ちしています。武田先生のパブリックスペースの活用のお話の中にあった「1 万人のイベントを 1 回よりも 100 人のイベントを 100 回！」がキーワードです。

●リサーチブックのテーマについて

コンパクトシティにおける公共施設・公共空間のデザイン

このテーマでリサーチブックを作成していくことになりました。テーマを決める上で重要なのは、内容の想像がしやすい、そしてテーマから具体的なイメージを持てることです。皆さんがなぜこの課題に取り組むのか、関心が持てるか、改めて整理することも大切です。

●リサーチブック作成の作業手順

1　構成（1 章からまとめを決める）
2　役割分担（役割が決まればどんどん原稿を書き進める）
3　改善（原稿全体のまとまりなどをみて追稿、補足や修正を行う）

まず、編集長と副編集長を推薦で決めたのち、早速企画会議が始まりました。各章やその担当者はどうするのかについて活発に意見が出ました。

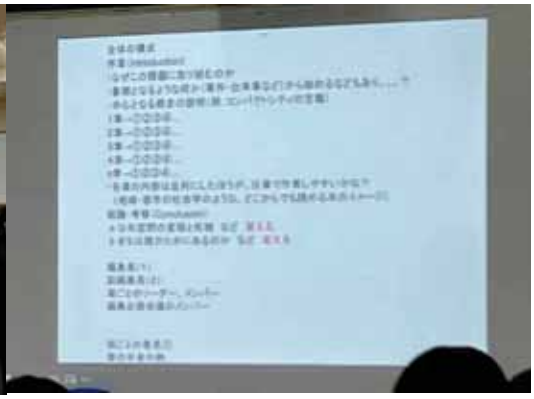
～話し合われた内容から～
序章にコンパクトシティの定義
公共空間の課題ごとに章の設定？
地域ごとの章の設定？
公共施設は何があるか
まちの地域性や文化にあった施設とは
まちでの異文化融合
ニーズにあった公共空間・交通機関
街や建物のデザイン、景観
廃墟の問題
各章での社会問題の扱い方

次週は、今日出た案や異見をもとに具体的に章分けについて決めてきましょう。

2023 年 1 月 31 日 SSR(高 2)授業 「リサーチブック作成 2」

今日の講座ではリサーチブックの構成を決めていく話し合いが行われました。前回の講座では活発に意見が出て非常に案も多く、それをいかにまとめるか話し合いました。

●章のまとめ方として
公共施設・空間ごとに章を分ける
→他には文化/人口問題/環境問題なども取り上げる案が出ましたが、抽象性が高くまとめることが難しいという意見が出ました。
→解決策として、取り上げたいトピックは担当の章で反映させるかまとめで取り入れることになりました。



【全体の構成】

序章

・なぜこの課題に取り組むのか

・象徴となるような何か（事件、出来事など）

・中心となる概念の説明（例：コンパクトシティなど）

１章～ｎ章

・各章の内容は序列にする

（地域・都市の社会学といったような、どこからでも読み始められるイメージ）

結論・考察

・公共空間の変貌と危機　など

・まちは誰のためにあるのか　など

→誰もが住みやすいコンパクトシティへの提案にまとめる

●役割分担

編集長/副編集長/章ごとのリーダー、章ごとのメンバー/編集会議メンバー

章の担当分けでは大きく①交通②施設③その他（道路、排除アート、設置物など）に分類

生徒たちの様子からやる気に溢れていることがわかります。それぞれとても熱心なことから白熱した議論になる場面もありました。章決めや、各担当決めではそれぞれの関心から思い入れもあります。城村先生からのアドバイスとして「なんとなく嫌なものを進めていくのではなく、うまくできるという確信のもとやっていきましょう」を聞き、生徒たちも納得の上、前向きに話し合っていました。これからは担当も決まったので、それぞれ個人作業として原稿を書き進めていきます。

2023 年 2 月 21 日 SSR(高 2)授業 「リサーチブック作成　各グループ経過発表」

章のテーマごとにグループに分かれた生徒たちは、それぞれ原稿の作成にあたり内容をまとめています。今日は、途中経過としてその内容を発表し、全体で共有します。

●各グループの構成の紹介

各グループの発表より原稿の大まかな構成を紹介します。カテゴリーの中にもさらに区分けがされていて、調べたりまとめたりすることは役割分担により進められています。

【公共交通について】

① 海外の交通、コンパクトシティとの関係

→セグウェイ、電動スクーター、トラム、LRT（欧州）、BRT（中国）

自動車に代わる公共交通の普及によるさまざまな効果

→環境保全、地域の経済活性、騒音問題解決、都市のスプロール化防止など

② 日本の例

日本で使われている公共交通機関の問題点

→海外の公共交通機関を日本に取り入れるときの問題点

→日本の公共交通機関の改善点

③ 良い公共交通機関とは

交通機関におけるサービス

→バリアフリー、乗り物間のわかりやすくスムーズな乗り換え

→日本らしい正確さ、清潔さ、おもてなし精神

乗り物の進化版

→お寺トラム、学校トラム、電動キックボード、中国バス

それぞれの交通機関の相互乗り入れ

→駅を統一、乗り物に自転車等の持ち込みを可能とする

【コンパクトシティにおける公共空間について】

① ショッピングモール

ショッピングモールの利点

→一カ所で複数の目的が果たせる、アクセスが良い、対象の年齢を問わない、バリアフリー

ショッピングモールの問題点

→地元の商品がない、地元の商店街が集客力を失う、中心市街地の空洞化

商店街をショッピングモールに（香川県高松丸亀町商店街の取り組み）

→ただ物を売る小売業から、そこにいるだけで楽しめる場所作りを

② 美術館

美術館の例

ルイジアナ美術館、鳥取県立美術館、富山ガラス美術館、アモレックス美術館、ノルウェー国立美術館

→美術館とは

→それぞれの美術館の特徴

→美術館とコンパクトシティの関係

誰でも楽しめる、アートに親しむ以外にも

くつろいだり交流できる場所、街の中心的な存在

③ 病院

病院の方針

→クリニックの点在、多機能を担う必要性、街の雇用創出

病院の利点

→地域との関り、訪問診療、一カ所に集約することで便利に経済的に

病院の欠点

→医者との距離、代替機能の整備

改善策とコンパクトシティにおける病院

→地域密着型、訪問診療の充実などによる高齢化社会への対応

【その他】

コンパクトシティ政策を実行した際の私たちが考えるメリット・デメリット

① デメリット

→路地裏の増加、街の無個性化、都市の空洞化、第一次産業の存在の軽視、

② 解決のために

道路

→道は排除されない、場所によっては自由でインフォーマルな空間として使用、公共施設をつなぐ、歩行者天国、まちの骨格、環境・景観を形成、安全性の確保、障害のあるない人のどちらもの移動がスムーズ

設置物

→ゴミ箱、ベンチ、公園の水道など

→ユニバーサルデザイン、バリアフリーなど使いやすさ

自然とコンパクトシティ

自然との共存の必要性と方法

→コンパクトシティとエコの関係、グリーンカーテン

2023 年 2 月 28 日 SSR(高 2)授業 「リサーチブック作成　各自原稿を仕上げる」

いよいよ高校２年生 SSR 最後の講座となりました。２年生では、課題図書の輪読や講演などを通してさまざまな視点からまちづくりについて理解を深め、そしてリサーチブックの作成では学んだことと自分たちの考えの総まとめに取り組んできました。今日は CC にて、各自原稿を仕上げるために、グループで、または教員と最終的な打ち合わせをしました。

３年生の SSD では、さらにアウトプットの機会を増やし、実際にフィールドワークに行くことも視野に入れています。またこのメンバーで取り組むことを楽しみにしています。